

2023年7月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 7月えんだより

7月の聖句「主よ、朝ごとに、わたしのこえを聞いてください。」

詩編 5 篇 4 節

今年の梅雨は中休みがあったものの、雨の多い「梅雨」らしい梅雨になっています。私が子どもの頃の「梅雨」のイメージはまさしくこのようなものだったように記憶しています。そして、そのような梅雨の雨の多くは、災いより恵みを多くもたらしてくれる雨でした。けれども、近年の梅雨の雨は、各地で水害をもたらすことが多くなっているように感じます。まだしばらく梅雨は続く様ですが、今年の梅雨は「平凡な」恵みの多い梅雨であって欲しいと願います。

1995年1月17日午前5時46分、阪神間の街が大きな揺れに襲われました。我が家は倒壊は免れたものの、まだ何が起こったのかよくわからないまま、とにかく明るくなるのを待ちました。停電の為、いつもの朝のようにテレビから映像が流れることがない中、バイクで神戸市街地の身内の安否確認に向かった際に目に飛び込んできたのは、火災で焼け野原になった須磨や長田の街でした。「これは夢？夢であって欲しい。」と祈ったのを今でも鮮明に覚えています。その後、YMCAでも救援、復興活動に取り組むなかで、保育園、水泳教室、野外活動やキャンプといったそれまで当たり前に行われていた「平凡な」毎日を過ごすことができなくなってしまいました。日常の活動から離れ、毎日のように壊れてしまった街の中、西へ東へと救援、復興活動に走り回る毎日。あちらこちらで崩れ落ちた建物やひび割れた道路、折れ曲がった鉄道のレール等を目にしながら、「神様、これが神様の御心、ご計画ですか？」といった問いかけと共に、一日も早く震災前の「平凡な」日々が戻ることを朝に夕に祈っていました。

あれから28年。この間にも、東北や熊本、北海道、千葉、岡山、静岡等々でも様々な災害により、「平凡な」日々を奪われてしまった人々が多くいらっしゃいます。そして、今この時も地球上で多くの人々が「平凡な」日常を奪われています。一方で、新しい朝はすべての人々に平等に訪れます。神様から与えられるこの新しい朝のように、すべての人々が「平凡な」日々を送ることができることを祈りつつ、こども園での「平凡な」毎日を願い、感謝の祈りをもって歩んでいきたいと思えます。

7月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	いいきもち	やってみる
月の願い	*暑い夏の生活や、夏ならではの遊びを楽しむ中で、“いいきもち”をたくさん感じながら過ごしてほしいと思えます。	*神様が造られた自然(水・土・光など)に触れながら、心や身体をたくさん動かして夏の遊びを楽しんでほしいと思えます。
讃美歌	「ちから」 幼児讃美歌Ⅱ15	「かみさまがつくられた」 こども改 112